

### 上関原発計画

# 「埋め立て期限内に」 中電社長、見通しは示さず

中国電力の清水希茂社長は10日、上関原発建設計画について「期限内に埋め立てを完了させる意思は変わらない」と述べ、一時中断している海上ボーリング調査の再開に向けて県に占有許可を再申請する考えを改めて示した。村岡嗣政知事への年始あいさつに訪れた県庁で、記者団の取材に答えた。

県は昨年7月、調査期間6カ月を含む3年6カ月の



公有水面埋め立て免許の再延長を中電に許可。調査は原発の新規制基準に沿っため活断層の有無を調べるのが目的で、中電は11月の開始を予定したが、反対派住民の抗議活動や悪天候などもあって12月に中断を決めた。

既に免許の再延長から約半年が経過。清水社長は「結果として進められず残念」としつつ、現時点で計画の延期はないとの認識を

示した。占有許可の申請時期は検討中とし、調査再開の見通しについては明言を避け「安全確保が大原則。住民の理解を得ながら進めたい」と述べた。

上関原発の位置付けに関し、温室効果ガス削減に向けた国際的な動きも踏まえ「原子力がベースになれば現実的な絵は描けず、既設の原発だけでは目標は達成できない」と指摘。「時代に対応し、ますます上関の必要性は高くなる」との見解を示した。

(岩崎新)

新年あいさつで県庁を訪れ記者団の質問に答える中国電力の清水希茂社長11日、県庁